

---

**2014年3月期  
第3四半期決算 及び 通期業績見通し  
説明資料**

---

**帝人株式会社**  
2014年2月3日

# 第3四半期決算概況

# (1) 2014年3月期 第3四半期決算概況

(億円)

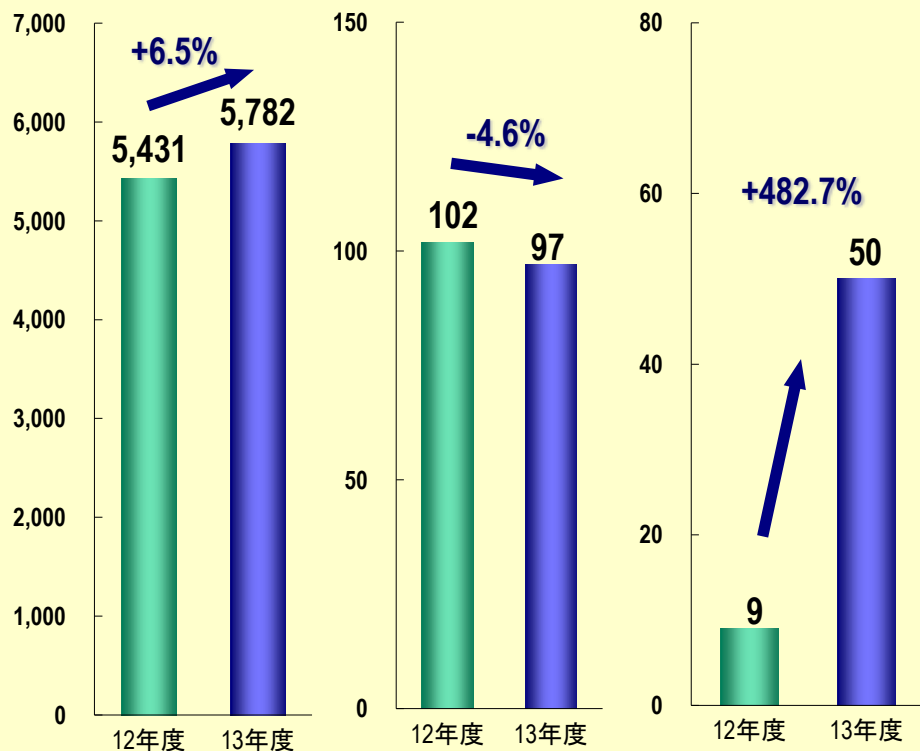
## 年度累計

(前年同期比)

売上高

営業利益

四半期純利益



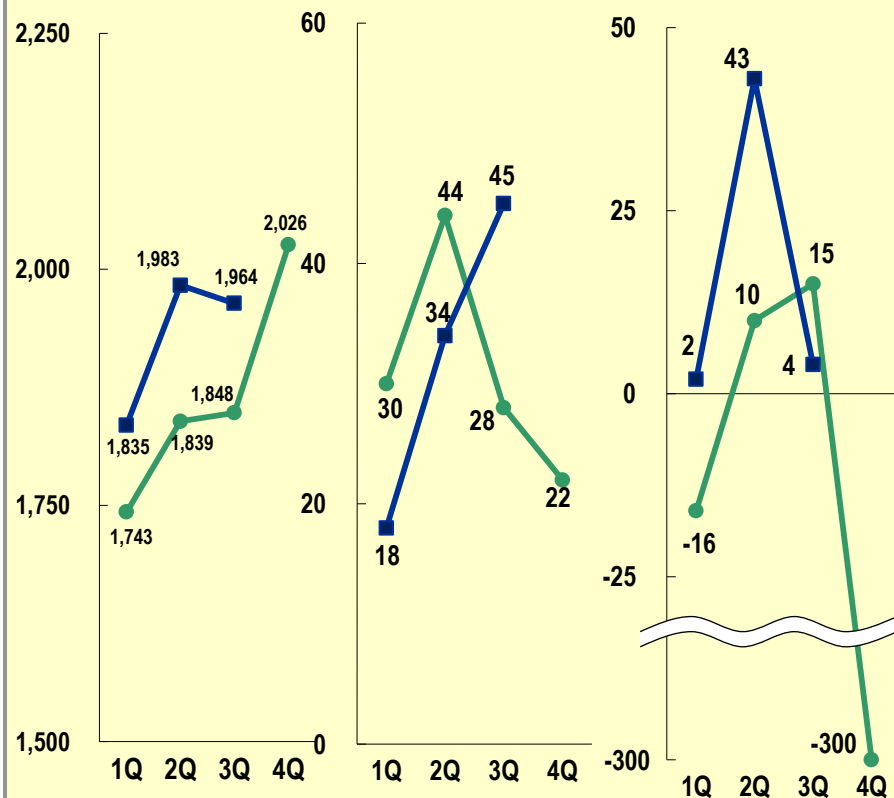
## 四半期推移

● 12年度 ■ 13年度

売上高

営業利益

四半期純利益



## ◆ 経営成績

(億円)	12年度 3Q累計	13年度 3Q累計	差異 金額
売上高	5,431	5,782	+351
営業利益	102	97	-5
<営業利益率>	1.9%	1.7%	-0.2%
営業外損益	-17	30	+47
経常利益	85	127	+42
特別損益	-16	-16	+0
税金等調整前 当期純利益	69	111	+43
法人税等	55	80	+26
少数株主損益	5	-20	-25
四半期純利益	9	50	+42
EPS(円)	0.88	5.11	+4.24

EBITDA *1	446	437	-9
設備投資 *2	248	210	-38
減価償却費	344	340	-4
研究開発費	238	239	+0
FCF	35	-190	-225

## ➤ 売上高 増収

- ・ 円安による為替影響もあり増収

## ➤ 営業利益 ほぼ横ばい

- ・ 業績改善: 高機能繊維・複合材料
- ・ 業績悪化: 電子材料・化成品、  
原料・重合

## ➤ 四半期純利益 大幅増益

- ・ 持分法による投資利益 増
- ・ 投資有価証券売却益 計上
- ・ 減損損失 計上

## ◇ PL換算レート

	12年度 3Q累計	13年度 3Q累計
円 / 米ドル	80	99
円 / ユーロ	102	132
米ドル / ユーロ	1.28	1.33

\*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出 \*2: 設備投資には無形固定資産を含む

## ◆ 特別損益等

(億円)	12年度 3Q累計	13年度 3Q累計	差異 金額
固定資産売却益	9	2	-8
投資有価証券売却益	0	82	+81
退職給付制度改定益	4	—	-4
その他	3	5	+2
特別利益 計	17	88	+71
固定資産除売却損	8	9	+1
投資有価証券評価損	8	1	-7
減損損失	7	64	+57
事業構造改善費用	0	18	+17
洪水関連費用	3	—	-3
その他	8	13	+5
特別損失 計	33	104	+71
特別損益 計	-16	-16	+0

法人税等	55	80	+26
少数株主損益	5	-20	-25

## ➤ 特別損益

- ・ 投資有価証券売却益 82億円
- ・ 減損損失 64億円  
樹脂シンガポール1系列休止  
フィルム生産拠点集約  
パラキシレン生産中止 等

## ➤ 法人税等

税前利益 111億円



税効果を取れない赤字会社、  
のれん償却費等の影響

⇒法人税等 80億円

四半期純利益 50億円

## ◆ 財政状態

(億円)	13年3月末	13年12月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,624	7,910	+286	+312
自己資本	2,713	2,833	+121	+111
有利子負債	2,708	2,969	+261	+147

D/Eレシオ	1.00	1.05	+0.05
自己資本比率	35.6%	35.8%	+0.2%

- **総資産 増加:**
- 為替換算影響大
  - 投資有価証券 増加
  - たな卸資産 増加(季節要因)
  - 現預金・売掛債権大幅減少
- **有利子負債 増加:**
- 為替換算影響
  - NET運転資本 増ほか

## ◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動他	現金及び 現金同等物 増減
13年度 3Q累計	186	-376	-190	51	-139
12年度 3Q累計	310	-274	35	18	53

## ◇ BS換算レート

	13年 3月末	13年 12月末
円 / 米ドル	94	105
円/ユーロ	121	145
米ドル/ユーロ	1.28	1.38

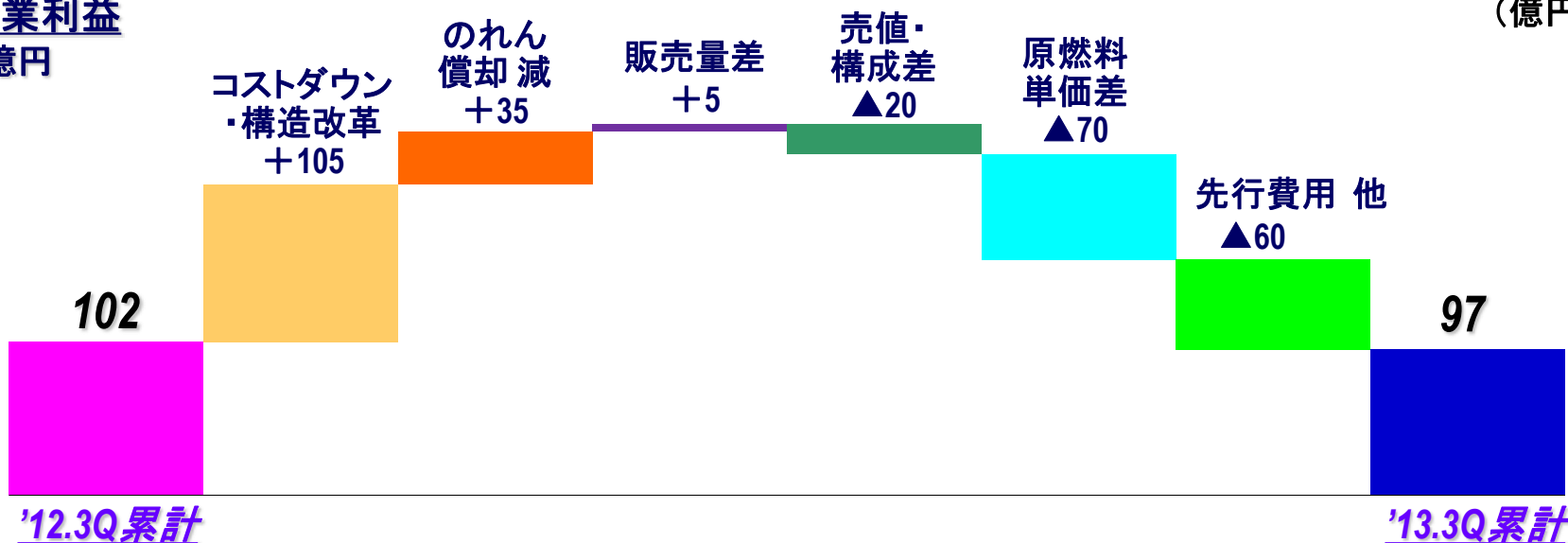
\* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

### ◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

#### ◇ 営業利益

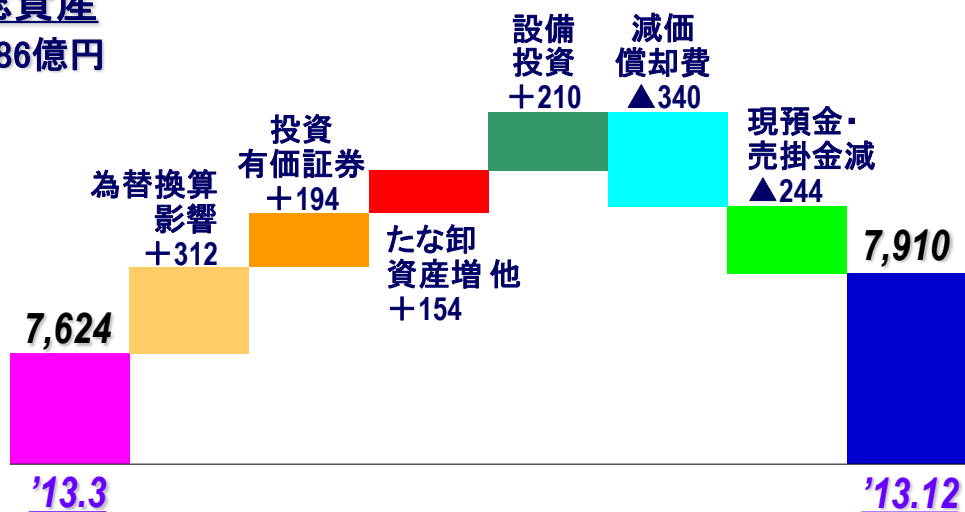
▲5億円

(億円)



#### ◇ 総資産

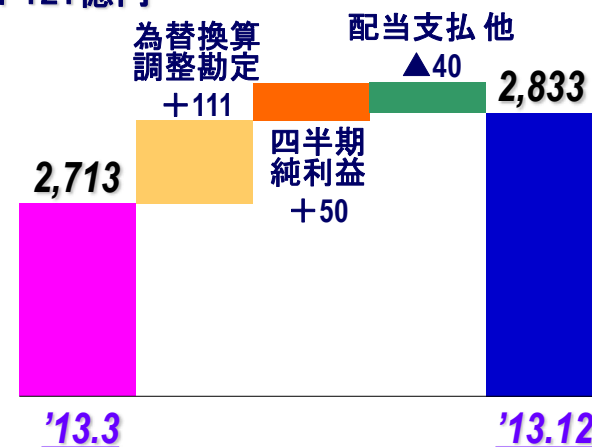
+286億円



#### ◇ 自己資本

+121億円

(億円)



## (2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	12年度 3Q累計	13年度 3Q累計	差異	増減率	12年度 3Q累計	13年度 3Q累計	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	779	888	+108	+13.9%	-17	33	+50	—
電子材料・化成品	1,315	1,363	+48	+3.6%	11	-45	-56	—
ヘルスケア	1,000	1,014	+14	+1.4%	164	173	+9	+5.6%
製品	1,765	1,869	+104	+5.9%	37	34	-2	-6.2%
計	4,860	5,133	+274	+5.6%	195	196	+1	+0.7%
その他	571	649	+78	+13.6%	14	-9	-22	—
消去又は全社	—	—	—	—	-107	-90	+16	—
合計	5,431	5,782	+351	+6.5%	102	97	-5	-4.6%

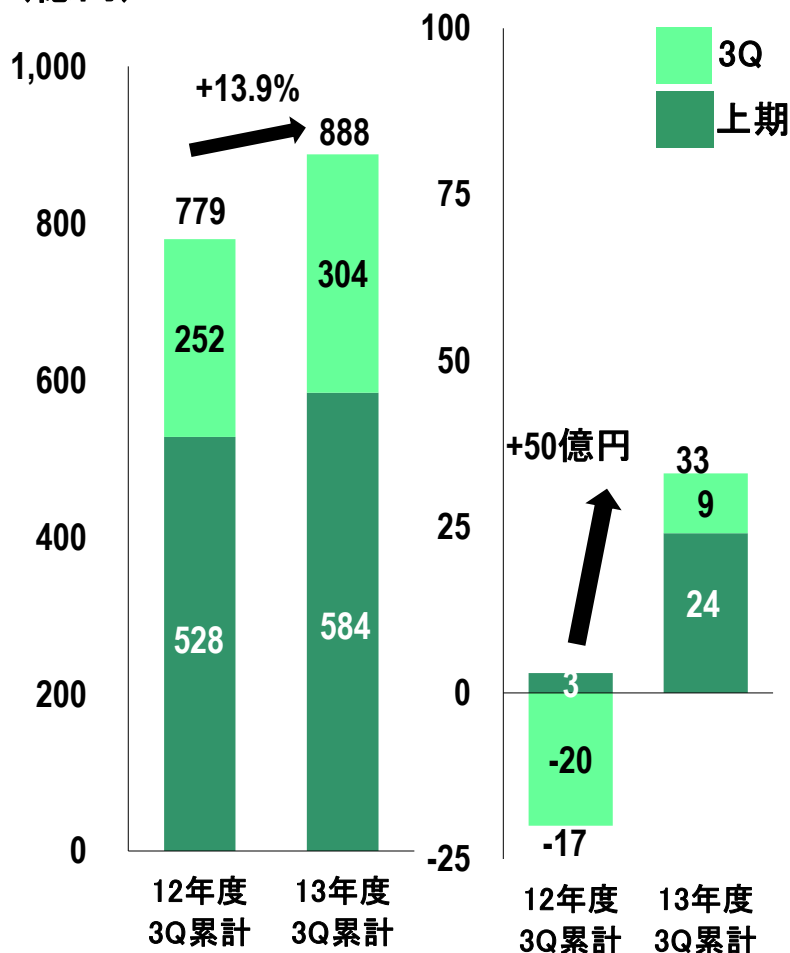


# ① 高機能繊維・複合材料事業

## 売上高

## 営業利益

(億円)



(億円)	12年度 3Q累計	13年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	779	888	+108	+13.9%
営業利益	-17	33	+50	-

## ◆事業概況

### ◇高機能繊維:

#### パラアラミド繊維:

- ・ 光ファイバー用途、自動車関連用途は堅調を維持するも、防弾・防護用途は需要低迷
- ・ 価格競争が激化
- ・ オランダ拠点での合理化を推進

#### メタアラミド繊維:

- ・ 産業資材用途等の販売は堅調に推移も、フィルター用途で競合激化

#### ポリエステル繊維:

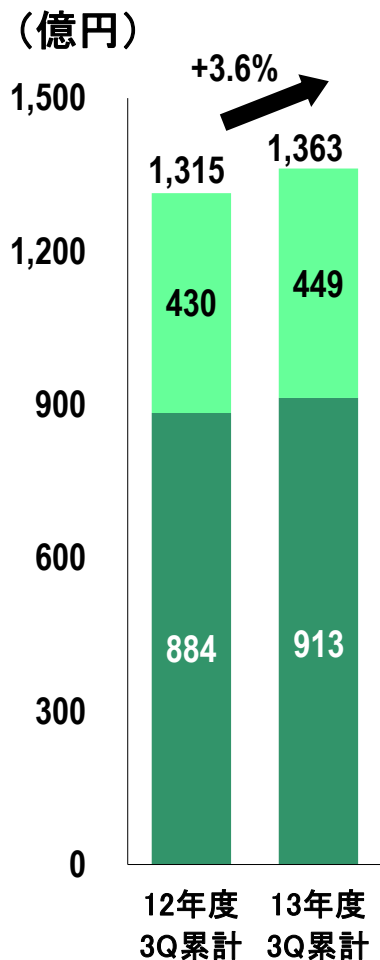
- ・ 自動車関連、衛生材料、寝装用途の販売順調

### ◇炭素繊維・複合材料:

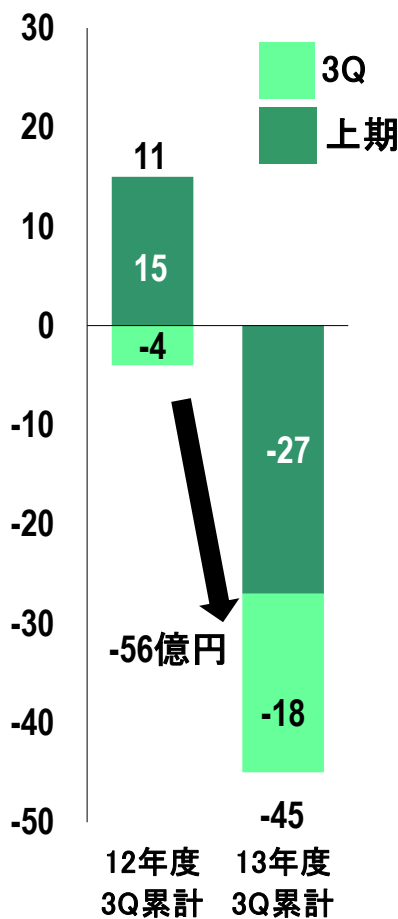
- ・ 航空機用途・圧力容器用途は堅調推移
- ・ レクリエーション用途は回復基調も、一部需要は頭打ち
- ・ 米国拠点の系列休止により生産効率改善

② 電子材料・化成品事業

売上高



営業利益



(億円)	12年度 3Q累計	13年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,315	1,363	+48	+3.6%
営業利益	11	-45	-56	-

◆ 事業概況

◇ 樹脂:

PC樹脂:

- ・ 需給軟調、柔軟な価格対応によりシェア確保
- ・ 事務機器向け堅調も、デジカメ向けで苦戦
- ・ シンガポール拠点の一部系列を休止

特殊PC、樹脂加工品:

- ・ カメラレンズ向け、シートが順調に推移

◇ フィルム:

PET国内:

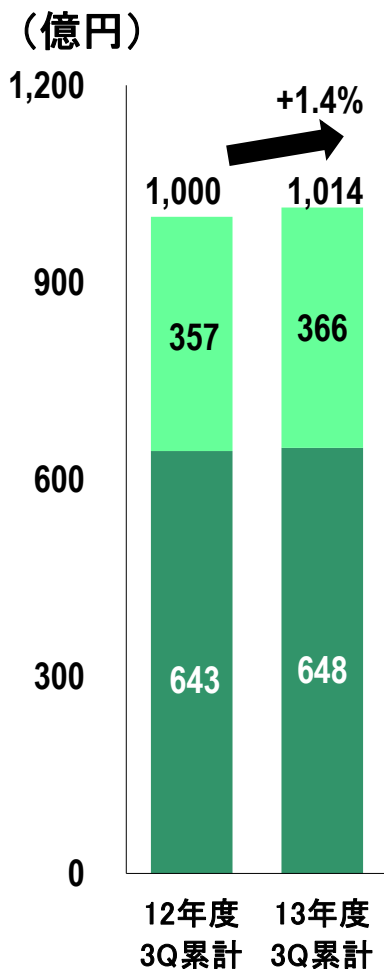
- ・ 液晶TV向けは市場の在庫調整もあり価格低下圧力強まる
- ・ 高機能離型フィルム好調
- ・ 構造改革の一環として茨城事業所を休止

PEN国内: データストレージテープ 販売減退

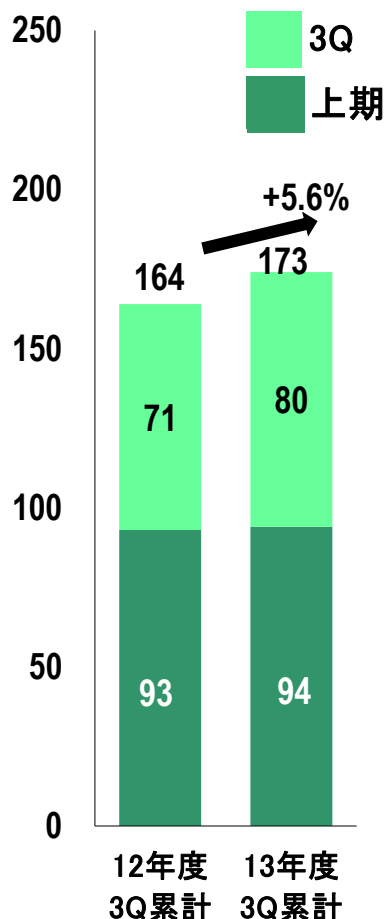
PET海外: 中国・欧州は堅調も、米国では需要減

### ③ ヘルスケア事業

#### 売上高



#### 営業利益



(億円)	12年度 3Q累計	13年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,000	1,014	+14	+1.4%
営業利益	164	173	+9	+5.6%

#### ◆ 事業概況

##### ◇ 医薬品:

- 高尿酸血症治療剤「フェブキソスタット」  
国内売上は着実に伸長、トップシェア確立  
海外でも30ヶ国以上で販売、順調に拡大中
- 骨粗鬆症治療剤「ボナロン\*」  
競争激化による厳しい事業環境は継続も、  
新剤形の拡販により回復傾向

##### ◇ 在宅医療:

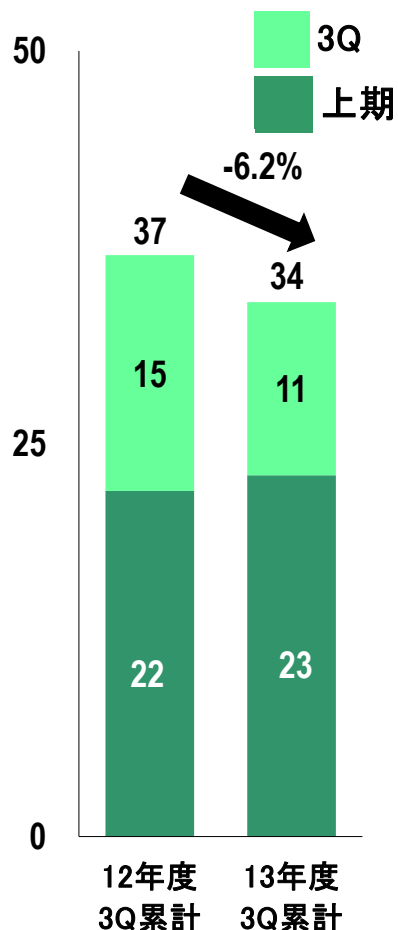
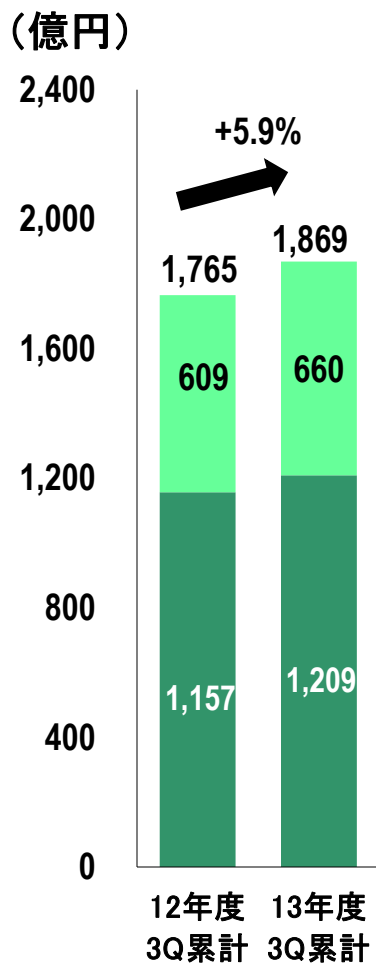
- HOT: 新機種投入、レンタル台数を維持
- CPAP: 携帯電話網の活用によるモニタリングシステム「ネムリンク」の効果もあり、レンタル台数は着実に伸長
- 米国では厳しい事業環境が継続  
営業所の統廃合・人員削減は順調に進捗

\* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

④ 製品事業

売上高

営業利益



(億円)	12年度 3Q累計	13年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,765	1,869	+104	+5.9%
営業利益	37	34	-2	-6.2%

◆ 事業概況

繊維素材：

- ・ 欧米向けファッション・スポーツ用途好調
- ・ 最先端スポーツ機能素材の拡販に注力

衣料繊維：

- ・ 製品OEM事業は順調も、円安によるコスト増により収益面では苦戦

産業資材：

- ・ 自動車関連素材・部材は好調に推移
- ・ 一般繊維資材(農水産・土木建築関連、不織布等)好調
- ・ インテリア関連、化成品関連は市況低迷継続

# 2014年3月期 通期業績見通し

## (1) 環境認識

グローバル経済：先進国主導で回復ペースはやや強まるも、新興国経済には脆弱さ残る

GDP成長率

IMFデータ(2014年1月公表)

(単位%)	2011 実績	2012 実績	2013		2014 見通し
			今回公表	10月見通しとの差	
グローバル	3.9	3.1	3.0	+0.1	3.7
先進国	1.7	1.4	1.3	+0.1	2.2
新興国	6.2	4.9	4.7	+0.2	5.1

— 業界動向 —

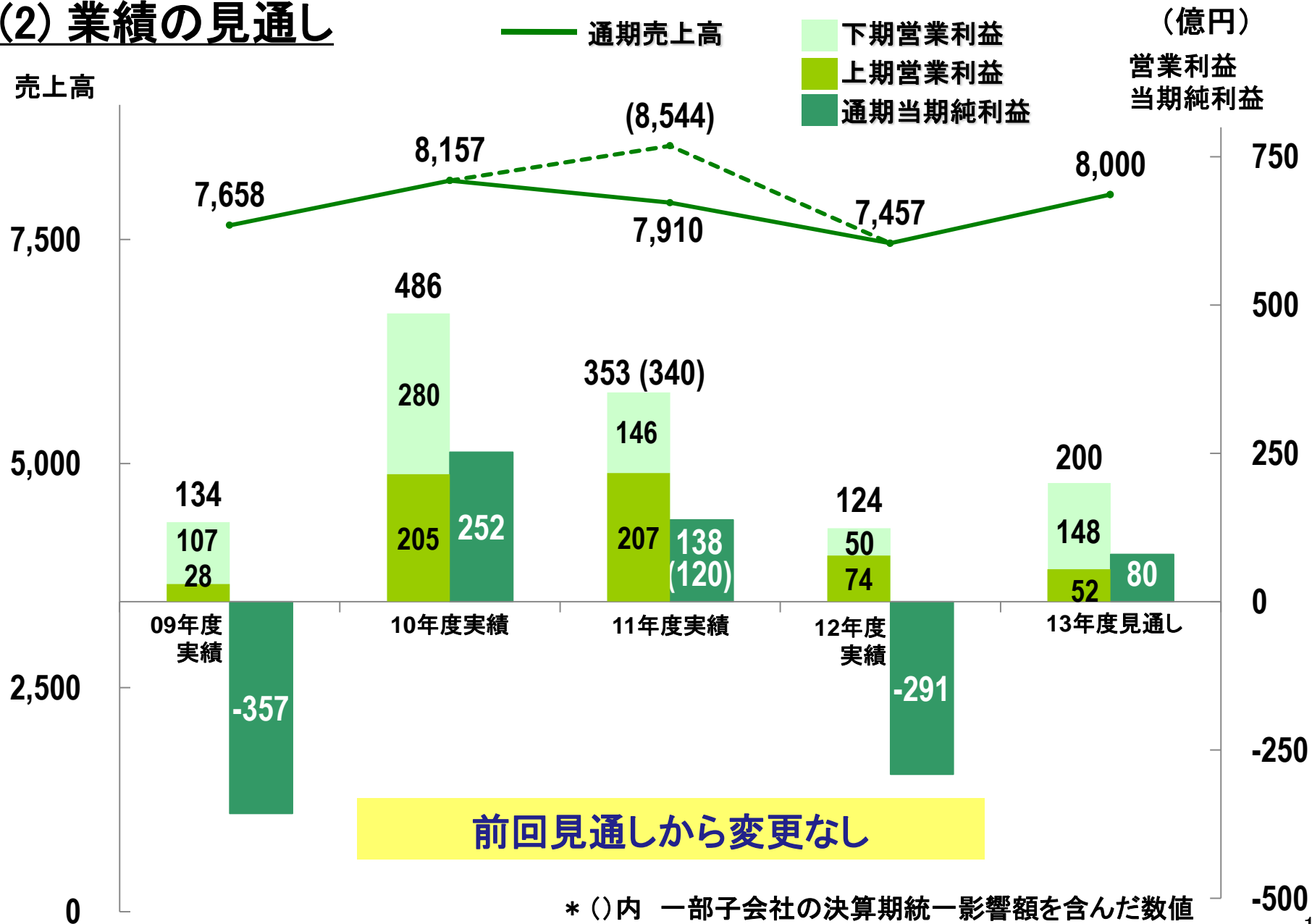
### 【自動車】

- ・ 中国・米国が市場を牽引、新車販売台数は過去最大へ
- ・ 欧州・東南アジアでは需要停滞が継続

### 【エレクトロニクス】

- ・ スマホ・タブレットに依存した産業構造強まる ⇔ パソコン・デジカメはマイナス成長へ
- ・ 薄型テレビ市場は成熟化 — 先進国はマイナス成長、新興国アジアで伸長も価格下落止まらず

## (2) 業績の見通し



## (3) 通期業績見通しの概況

\*2 前回見通しは2013年11月1日に公表

(億円)	12年度	13年度 今回見通し	差異		13年度 前回見通し*2	前回見通し との差異 (金額)
			金額	%		
売上高	7,457	8,000	+543	+7.3%	8,000	—
営業利益	124	200	+76	+61.8%	200	—
<営業利益率>	1.7%	2.5%	—	+0.8%	2.5%	—
経常利益	98	210	+112	+114.6%	180	+30
当期純利益	-291	80	+371	—	80	—
設備投資*1	363	380	+17	+4.8%	380	—
減価償却費	469	450	-19	-4.0%	450	—
研究開発費	332	340	+8	+2.5%	340	—
FCF	264	0	-264	-100.0%	0	—

\*1 設備投資には無形固定資産を含む

## ■ 中間配当及び期末配当予想

中間配当	2.0円/株
期末配当	2.0円/株の見通し
年間配当	4.0円/株の見通し

## ■ 2013年度見通し前提

	前回見通し*2	今回見通し
米ドル	99円	100円
ユーロ	130円	133円
原油(Dubai)	104米ドル/バレル	104米ドル/バレル



## ◆ セグメント別 売上高・営業利益推移(前年実績対比)

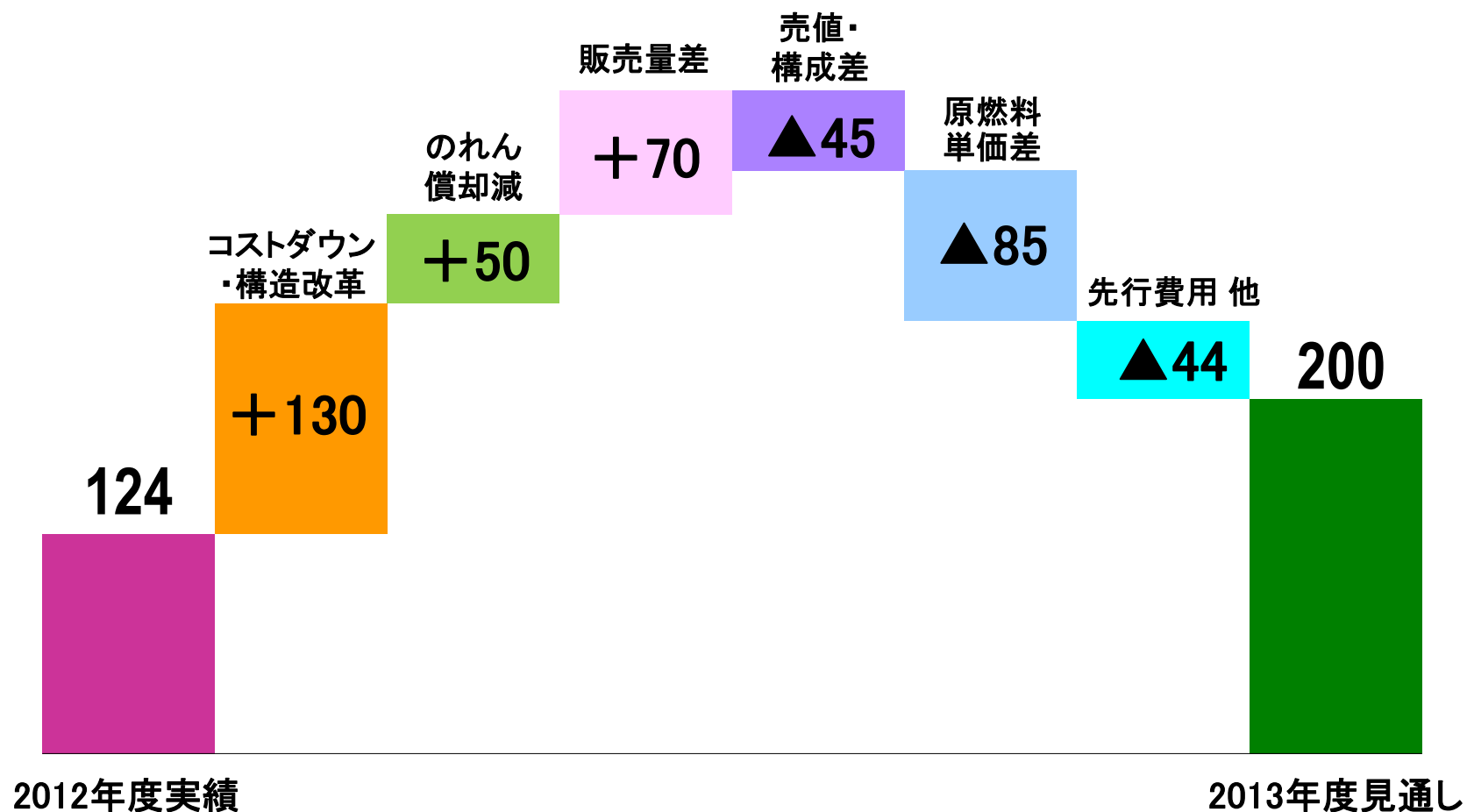
前回見通しから変更なし

	(億円)	12年度実績			13年度見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	528	584	1,112	584	716	1,300	+188
	電子材料・化成品	884	871	1,755	913	887	1,800	+45
	ヘルスケア	643	740	1,383	648	802	1,450	+67
	製品	1,157	1,215	2,372	1,209	1,341	2,550	+178
	計	3,211	3,411	6,622	3,355	3,745	7,100	+478
	その他	371	464	835	463	437	900	+65
	合計	3,583	3,875	7,457	3,818	4,182	8,000	+543
営業利益	高機能繊維・複合材料	3	-50	-47	24	31	55	+102
	電子材料・化成品	15	-34	-19	-27	-23	-50	-31
	ヘルスケア	93	155	248	94	156	250	+2
	製品	22	26	47	23	32	55	+8
	計	132	97	229	114	196	310	+81
	その他	6	37	42	-3	28	25	-17
	消去又は全社	-64	-84	-148	-59	-76	-135	+13
合計	74	50	124	52	148	200	+76	

## (4) 2013年度営業利益見通し増減内訳

### ◆ 2012年度実績対比

(億円)



**(5) 「収益力回復」に向けた施策****① 事業構造改革の推進**

【効果額:億円】

2013年      フル発現      完了時期

アラミド繊維

オランダ拠点 人員削減・生産性向上

15

30

完了

炭素繊維

米国拠点一部休止、人員削減

4

10

完了

樹脂

シンガポール拠点 一部休止

7

15

完了

フィルム

国内拠点 一部休止

7

20

完了

原料・重合

パラキシレン工程休止

-

13

2014年  
3月

在宅医療

北米拠点 営業所統廃合と人員削減

15

25

完了

コーポレート

本社機構改革

15

30

~2015年

構造改革効果 合計:

63

143

今後の収益状況見通しによっては、更に追加対策を実施

## ② 第4四半期の損益改善要因

(億円)	3Q	4Q	差	増減益要因
高機能繊維	9	22	+13	・ アラミド繊維の季節要因(12月販売量減)
炭素繊維・複合材料				・ 航空機、圧力容器向け等増販
樹脂	-18	-5	+13	・ 樹脂加工品拡販、タイ拠点活動開始
フィルム				・ コストダウン(茨城事業所休止等)
ヘルスケア	80	77	-3	・ フェブキソスタット販売増(国内外) ・ 薬価改定前の買い控え ・ 開発研究費増(季節差)
製品	11	21	+10	・ 春夏物ハイ・シーズン
その他	-5	34	+39	・ IT、エンジニアリング季節差
全社・消去	-31	-45	-13	・ 広告宣伝費、費用発生タイミング差、他
合計	45	103	+58	

## (6) 主要経営指標

	09年度 実績	10年度 実績	11年度 実績	12年度 実績	13年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	1.6%	6.1%	4.5%	1.6%	2.6%
ROE：当期利益／自己資本 <sup>*1</sup>	-12.4%	9.1%	4.2%	-10.3%	3.2%
売上高営業利益率	1.8%	6.0%	4.0%	1.7%	2.5%
D／Eレシオ <sup>*2</sup>	1.18	0.94	0.89	1.00	1.0
自己資本比率	33.0%	37.3%	38.3%	35.6%	35%
1株当たり当期純利益(円)	-36.3	25.6	12.2	-29.6	8.1
1株当たり配当金(円)	2.0	5.0	6.0	4.0	4.0
総資産(億円)	8,231	7,615	7,621	7,624	7,650
有利子負債(億円)	3,203	2,674	2,610	2,708	2,650
EBITDA(億円) <sup>*3</sup>	753	1,050	863	592	650

\*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

\*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

# 見直しに関する注意事項と事業等のリスク

## 見直しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

## 事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

### ① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

### ② 製品の品質にかかもの

ヘルスケア事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### ③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

### ④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### ⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2014年2月3日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。  
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

## ◆ 連結貸借対照表

(億円)	12年 3月末	12年 6月末	12年 9月末	12年 12月末	13年 3月末	13年 6月末	13年 9月末	13年 12月末
資産 合計	7,621	7,397	7,318	7,800	7,624	7,838	7,668	7,910
流動資産	3,618	3,521	3,507	3,734	3,723	3,725	3,662	3,856
固定資産	4,003	3,877	3,810	4,066	3,901	4,114	4,006	4,054
負債・純資産 合計	7,621	7,397	7,318	7,800	7,624	7,838	7,668	7,910
負債	4,499	4,402	4,330	4,654	4,703	4,889	4,713	4,893
(内 有利子負債)	2,610	2,547	2,523	2,749	2,708	2,877	2,923	2,969
純資産	3,122	2,995	2,988	3,145	2,921	2,949	2,955	3,017

\* 詳細については決算短信をご覧ください

## ◆ 連結損益計算書

(億円)	12年度				13年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,743	1,839	1,848	2,026	1,835	1,983	1,964
売上原価	1,275	1,357	1,382	1,538	1,379	1,513	1,482
売上総利益	468	483	466	488	456	470	483
販管費	439	439	438	466	438	436	438
営業利益	30	44	28	22	18	34	45
営業外損益	-8	-17	8	-9	-3	-8	41
（内 金融収支）	-3	-7	-5	-5	-3	-7	-4
（内 持分法投資損益）	4	1	1	-0	-1	4	34
経常利益	22	27	36	13	16	25	86
特別損益	-25	16	-8	-303	-3	53	-66
税前利益	-3	43	28	-290	13	78	20
法人税等	16	30	9	6	11	39	31
少数株主損益	-2	2	5	4	0	-4	-16
四半期純利益	-16	10	15	-300	2	43	4

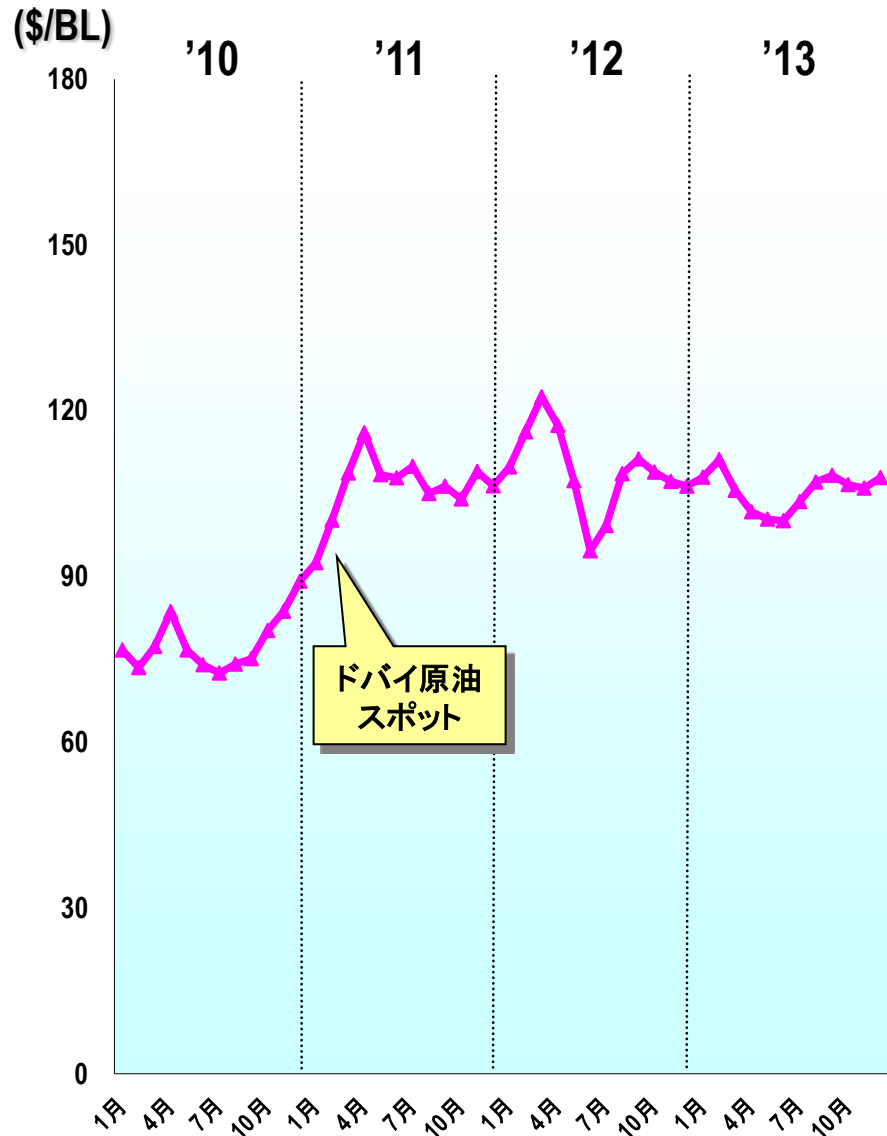
\* 詳細については決算短信をご覧ください



## ◆ セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

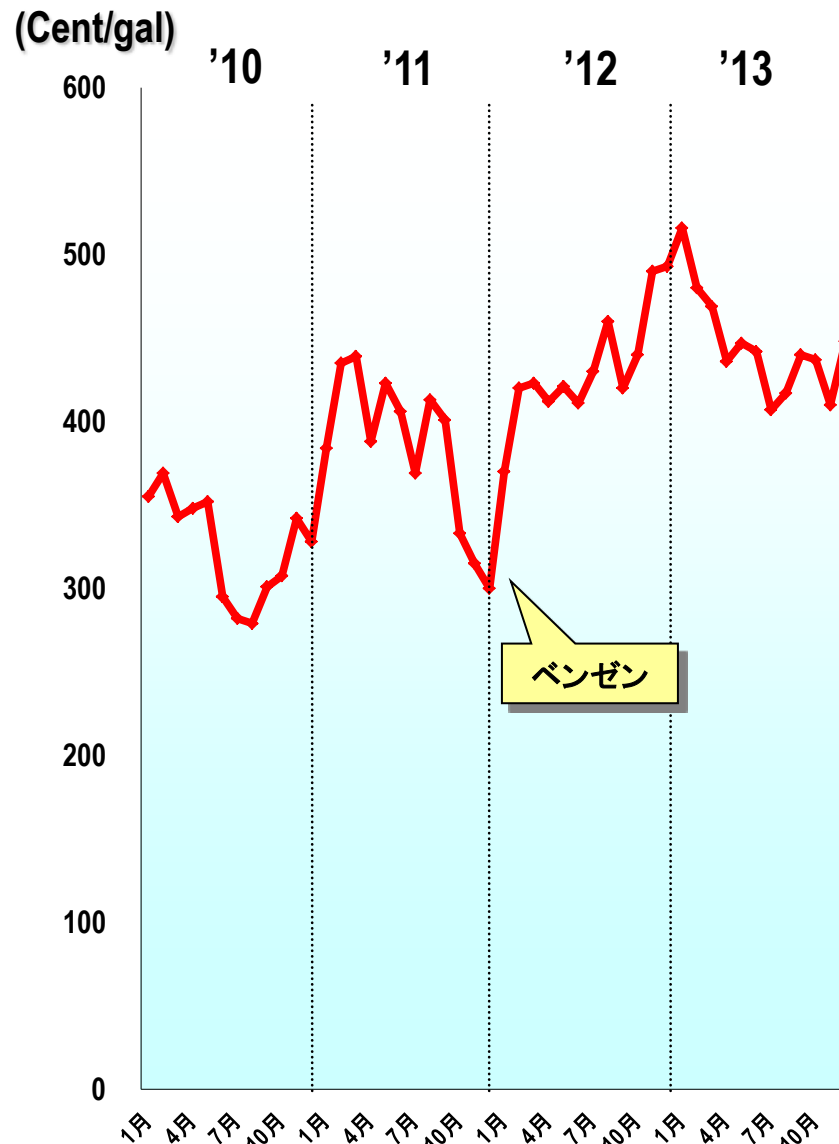
		12年度				13年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
(億円)								
売上高	高機能繊維・複合材料	261	266	252	332	282	302	304
	電子材料・化成品	437	447	430	441	443	470	449
	ヘルスケア	312	331	357	383	315	333	366
	製品	549	608	609	607	571	638	660
	計	1,560	1,652	1,648	1,762	1,611	1,744	1,779
	その他	184	187	200	264	224	239	186
合計		1,743	1,839	1,848	2,026	1,835	1,983	1,964
営業利益	高機能繊維・複合材料	-3	6	-20	-30	2	22	9
	電子材料・化成品	16	-1	-4	-30	-2	-24	-18
	ヘルスケア	38	55	71	84	46	48	80
	製品	7	14	15	10	6	18	11
	計	58	74	62	35	52	63	82
	その他	4	2	8	29	-0	-3	-5
	消去又は全社	-32	-32	-43	-41	-33	-26	-31
合計		30	44	28	22	18	34	45

### ◆ ドバイ原油価格推移



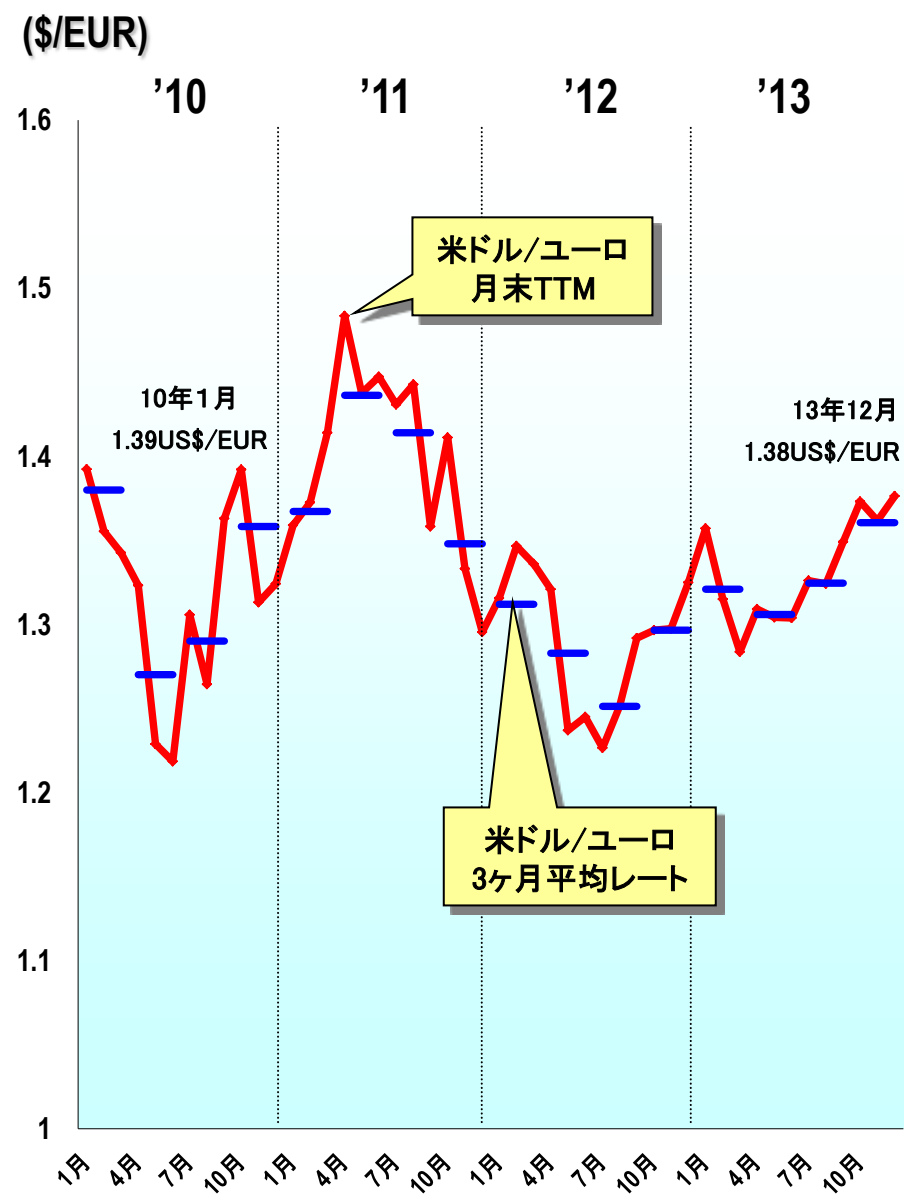
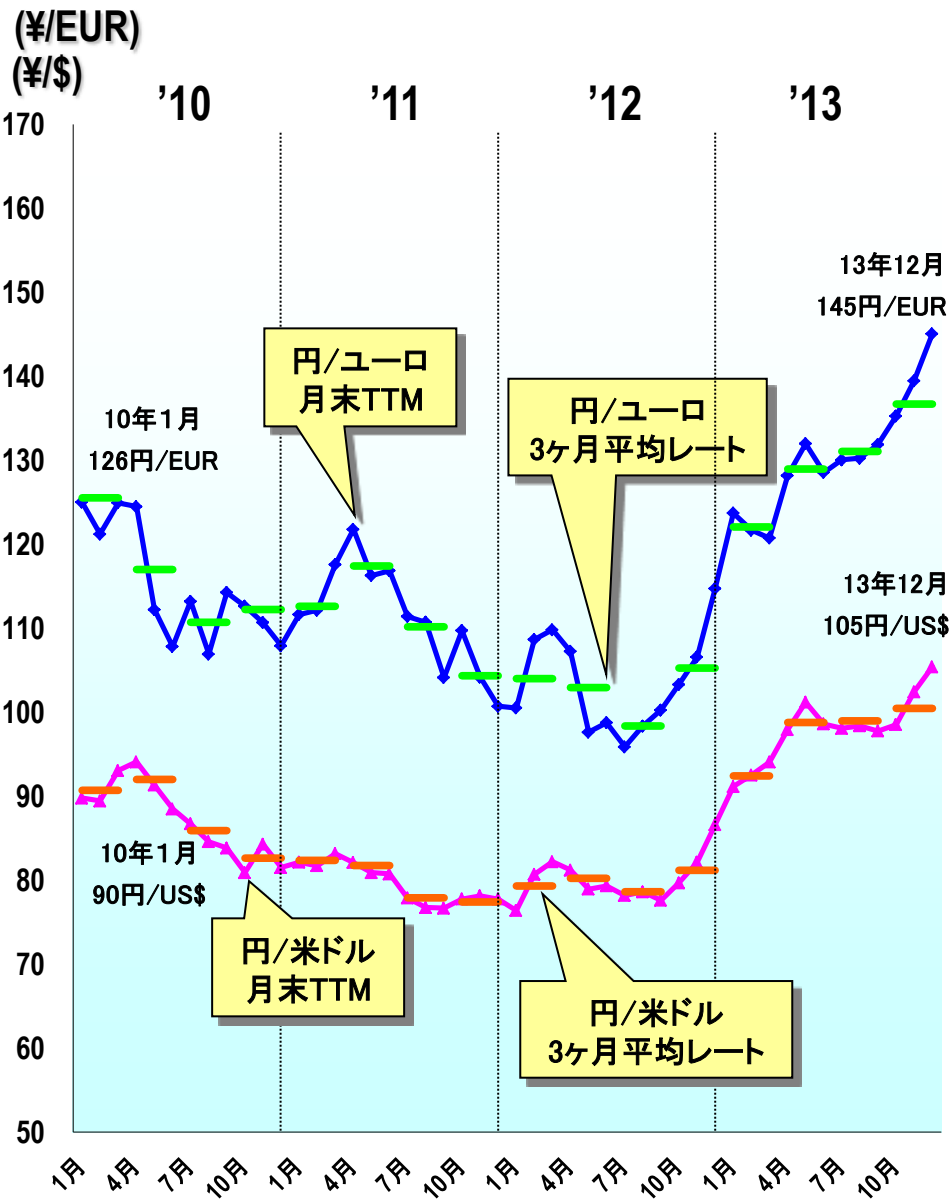
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

### ◆ ベンゼン価格推移



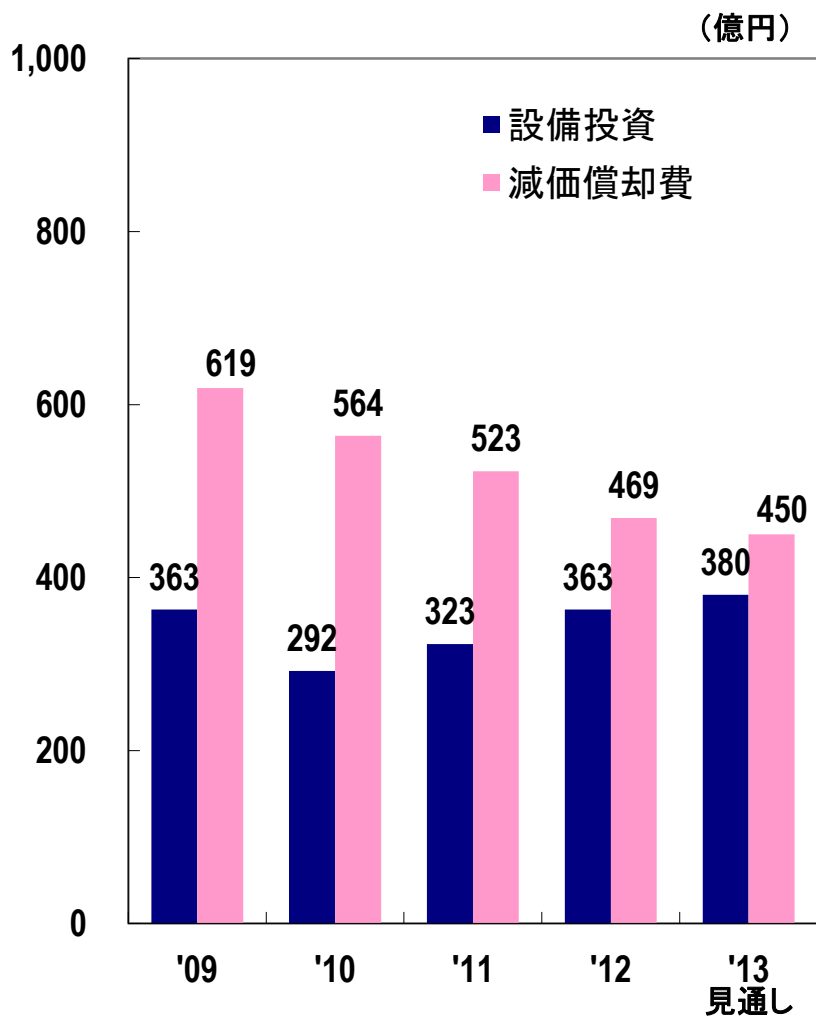
【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

### ◆ 円 / 米ドル、円/ユーロ為替レート推移

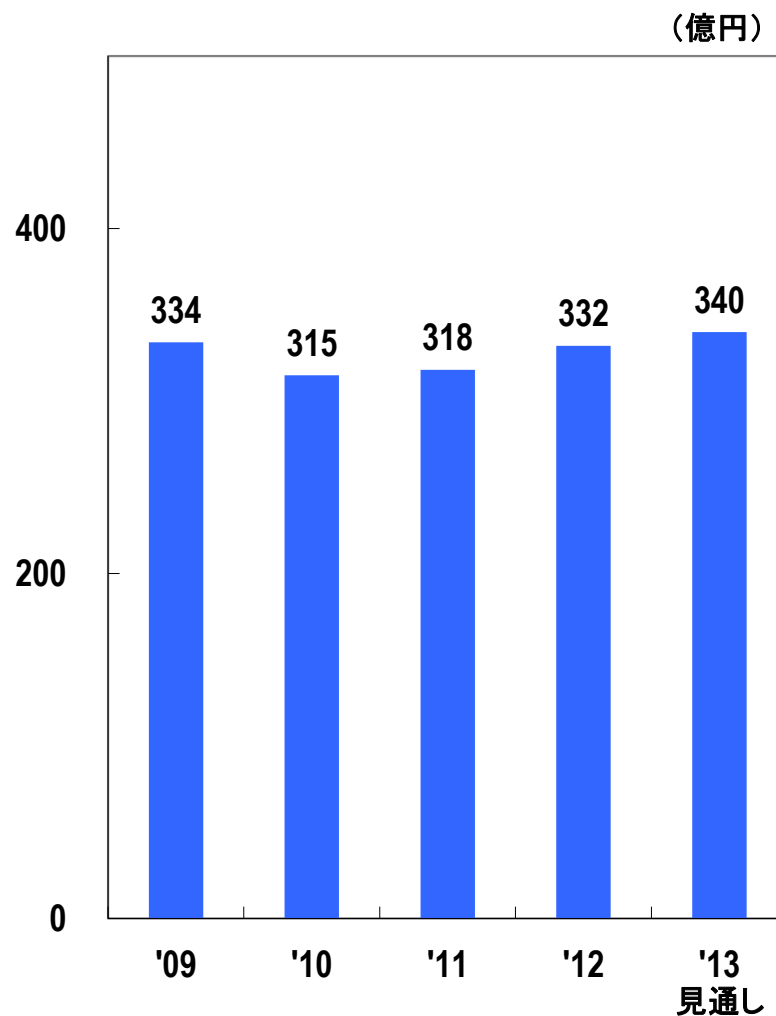


# ◆ 設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



## ◆ 主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	12年度					13年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	33	40	43	42	159	32	37	41
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	18	20	21	20	79	15	17	19
骨粗鬆症治療剤 計		51	60	65	62	238	47	54	60
ベニロン®	重症感染症治療剤	24	24	27	25	99	22	23	29
ムコソルバン®	去痰剤	21	19	26	24	90	17	18	24
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	7	12	17	19	55	19	25	34
ラキソベロン®	緩下剤	10	10	11	10	40	8	9	10
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	5	5	18	4	4	5
ボンアルファ®	角化症治療剤	4	3	4	3	14	3	3	3
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	4	4	13	3	3	4
サイビスクディスポ®	変形性膝関節症の疼痛緩和剤	4	3	3	2	12	2	2	2
スピロペント®	気管支拡張剤	2	2	2	2	9	2	2	2

\* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp &amp; Dohme Corp.の登録商標です。

## ◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2013年12月末現在)

\* 承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域		ITM-058 KTP-001			GTH-42J [ボナロン®]
呼吸器 領域	NA872ET [ムコソルバン] PTR-36*1				
代謝・ 循環器領域	TMG-123	ITM-014N*2 [ソマチュリン®] (適応追加: 神経内 分泌腫瘍)	TMX-67TLS*3 [フェブリク] (適応追加: 腫瘍崩壊症候群) TMX-67 [フェブリク] (中国)		ITM-014 [ソマチュリン®]
その他			GGG-ON, -MPA, -CIDP [ベニロン] (適応追加①: 視神経炎<ON>) (適応追加②: 顕微鏡的多発 血管炎<MPA>)*4 (適応追加③: 慢性炎症性脱 髓性多発根神経炎<CIDP>)*5		

\*1 PTR-36は2013年6月にPhase I 段階へ移行、\*2 ソマチュリン®の神経内分泌腫瘍への適応拡大として2013年10月にITM-014Nの臨床開発に着手、\*3 フェブリク®の腫瘍崩壊症候群への適応拡大として2013年10月にTMX-67TLSの臨床開発に着手、\*4 ベニロンの顕微鏡的多発血管炎への適応拡大として開発中のGGG-MPAは2013年11月にPhase III 段階へ移行、\*5 ベニロンの慢性炎症性脱髓性多発根神経炎への適応拡大として2013年12月にGGG-CIDPの臨床開発に着手

## ◆ 新規上市医薬品 (2013年12月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ソマチュリン® 皮下注 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症 下垂体性巨人症	先端巨大症及び下垂体性巨人症における過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする製剤処方とプレフィルドシリンジの採用によって、現行の治療薬と比べて利便性とコンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社 2013年1月17日に国内販売開始
ボナロン® 経口ゼリー35mg (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー製剤。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入: 米メルク社 2013年3月12日に国内販売開始

ボナロン® / Bonalon® は Merck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

ソマチュリン® は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

## ◆ 新規開発医薬品 (2013年12月末現在)

## 【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
GGs-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
TMX-67TLS (フェブキソスタット)	腫瘍崩壊症候群	本剤の強力な尿酸生成抑制作用により、1日1回の投与で、悪性腫瘍に対する化学療法に伴う高尿酸血症の発症を抑制することが期待される。	錠剤	自社開発品 (適応追加)
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能であり、中国における痛風・高尿酸血症治療の新たな選択肢として、痛風・高尿酸血症患者のQOL(Quality of Life)向上に貢献することが期待される。	錠剤	共同開発:アステラス 中国 (中国)



## 【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	神経内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導(直接的作用)や細胞栄養因子の分泌制御(間接的作用)を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社 (適応追加)
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者: 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発: 化血研

## 【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アンブロキシール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アンブロキシール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー・インゲルハイム社
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等)が期待される。	錠剤	
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序(CRTh2拮抗作用)によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果(軽症患者)や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果(軽症~重症の患者)が期待される。	錠剤	導入:英プルマジェン・セラピューティクス(アズマ)リミテッド社

# TEIJIN

*Human Chemistry, Human Solutions*

## *Human Chemistry, Human Solutions*

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。